

みやぎ生協

● 「被災地訪問企画第2弾」～南三陸町訪問～

メンバー対象に実施している被災地訪問企画は、6月6日（木）に石巻・女川方面へ、8月1日（木）は南三陸町へ訪問しました。それぞれ多くのメンバーの応募があり、抽選で各40人が参加しました。

第2弾として実施した南三陸町では、復興まちづくり推進員でもあるガイドの及川清隆さんに案内していただき、防災対策庁舎や戸倉中学校などを訪問しました。小高い山の上にある戸倉中学校は、床上2mまで津波が襲ったとのことで、2時50分

をさした時計が2年半近い年月を止めているようでした。昼食は、仮設商店街の「さんさん商店街」で各々取り、その後みやぎ生協の「復興応援 手作り商品カタログ」にも紹介している「入谷 yes 工房」で工房見学&お買い物をし、帰路につきました。

参加者からは、「実際に見学してみると、まったく違ったものに思える」「周りの空気、風に揺れる電線、圧迫感というか、なんともいえないものが押し寄せてくる」などの声が出され、実際肌で感じることの大事さを



防災対策庁舎にて

実感させられました。ボイスレコーダーに録音されている津波警報のアナウンスの声などは大変生々しく、参加者の心に残ったようでした

（生活文化部 八島美登利）

● 第1回「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結している自治体との懇談会を開催

8月6日（火）宮城県の後援を得て、みやぎ生協の主催で「災害時における応急生活物資の供給協定」を締結している自治体との「第1回懇談会」を、みやぎ生協文化会館ウイズにて開催しました。協定を締結している23の自治体のうち21の自治体と、宮城県環境生活部消費生活・文化課から2人ご参加いただきました。



宮本弘専務理事と宮城県高橋倫太郎課長補佐のあいさつの後、「みやぎ生協の事業継続計画」、「みやぎ生協の商品調達と配送計画などについて」説明と報告があり、その後、懇談しました。「物資の要請については、個別自治体から生協ではなく、県に一本化するなど、共通化するルール作りを考えたらどうか」「新型インフルエンザのような場合も物資の要請は可能か」「大規模災害時、住人のパニック的行動を起こさないためにも、情報提供問題が重要である。生協の情報提供も、適切にお願いした

い」など、多くの意見・要望が出されました。また、「有意義な懇談会であり、年1回と言わず定期的に開催して欲しい」「協定を締結していることや協定の中身は理解しているが、自治体の担当者も異動し、災害時の動き方がよくわからなかったが、今回の懇談会で理解できた」などの声も出されました。

今後は、出された意見などについて、みやぎ生協内部で検討し、必要に応じて各自治体に報告します。また、県連と共に、宮城県との「協定書」の見直しに着手する予定です。

（機関運営課長 稲葉勝美）

## ● 「第3回食のみやぎ復興ネットワーク総会」開催

7月5日（金）「第3回食のみやぎ復興ネットワーク総会」を勝山館4階彩雲にて開催し、123団体300人が参加しました。

当日は、東北大学准教授の冬木勝仁さんと全農みやぎ県本部長の千葉和典さんから、宮城県

農業復興への取り組みや、当ネットワークに寄せる期待についてお話しいただきました。復旧復興にむけて大きく動き出した一方で、新たに生まれてきた社会の要請（農商工連携・六次産業化等）に対して、当ネットワ

ークがどんな役割を果たせるのか、今後の活動の進め方について大きな示唆を頂きました。

（みやぎ生協店舗商品部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局

藤田孝）



総会であいさつする宮本弘専務理事

### 仙台広告賞テレビ部門で大賞受賞！

#### 食のみやぎ復興ネットワークのテレビCM “ずっとつながる篇”

みやぎ生協が制作した「食のみやぎ復興ネットワークのテレビCM“ずっとつながる篇”」が、第43回仙台広告賞のテレビ部門大賞を受賞し、7月2日(火)河北新報社で授賞式が行われました。

震災からの復旧に取り組む生産者本人が出演している事が、「演出では作れない強さがある。」と評価されました。

受賞した映像は、みやぎ生協HPでご覧いただけます。

【食のみやぎ復興ネットワークとは】

<http://www.miyagi.coop/hukkounet/about/>

東北大学生協

● 「震災を忘れない」企画を購買全店舗で開催

7月1日（月）～19日（金）まで、「震災を忘れない」企画を購買全店舗にて開催しました。

東日本大震災から2年以上が過ぎ、現在の東北大学の在校生の中には震災を経験していない



防災グッズ展示の様子

方も多くいます。一方で、復興が遅々として進んでいない地域もあります。震災の記憶を忘れないように、また、震災を経験していない方々に震災の記憶を語り継いでいくために、この企画を開催しました。

各キャンパスの購買店舗では、震災・防災関連の書籍を取り揃え、防災を訴えかけるコーナーを展開しました。企画コーナーでは、多くの方々が防災グッズを手にとっていました。また、

震災体験談をお寄せいただくコーナーも設けて展示しました。

「こんな道具があれば良かった」「こんなものがあって助かった」など、組合員の生の声が集まりました。

今回の企画は、組合員の方々の防災意識を高める良いきっかけになったかと思います。

今後も、このような企画を継続して行いたいと思います。

（理薬購買書籍店/工学部購買書籍店  
松元瑠衣）

尚絅学院大学生協

● 学生委員会のボランティア活動参加への思い

まもなく震災から2年半がたちますが、震災後すぐにアリスクラブ（生協学生委員会）として、ボランティア活動を行うことはありませんでした。個人的に活動している人もいましたが、委員会ではできずにいました。しかし、昨年の大学祭で「放射線による被害」について発表し

たことをきっかけに変わりました。知らないことが多すぎると痛感すると同時に、被害の現状を知ることの重要性を感じました。

現在は中村祐志専務理事の協力もいただき、様々なボランティア活動に参加しています。表は、今年参加したボランティア活動です。

今後は、知識や情報を委員会内だけでとどめず、組合員に発信し、組合員自身に震災復興への関心が芽生えるようにと思っています。現在、学内のボランティアステーションの存在や企画について知らない人も多くいるため、参加の呼びかけなどを行ったり、大学生協主催のボランティア企画を組合員に紹介し参加を呼びかけています。



南三陸町にて

（学生委員会副委員長  
中目ゆずき）

場 所	内 容
3/2（土） 午前：箱塚桜仮設住宅・午後：美田園第1仮設住宅	“やまちゃんサービス”お茶会
3/10（日）名取市関上中学校	キャンドルナイト
3/11（月）名取市文化会館	東日本大震災慰霊式典
3/23（土）亶理中央公民館	亶理ホームカミングデー見学
3/24（日）	参加
5/3（金）～5/4（土）南三陸町	被災地視察、がれき撤去作業 ※総代さんへの呼びかけを実施
5/5（日）名取市関上地域、亶理町	被災地視察バスツアー